

令和2年度病害虫発生予察特殊報第1号

令和2年(2020年)6月23日
山口県病害虫防除所

- 1 病害虫名 トルコギキョウ斑点病
病原菌：*Pseudocercospora nepheloides*
- 2 作物名 トルコギキョウ（施設栽培）
- 3 特殊報の内容 新発生
- 4 発生経過
 - (1) 発生確認月日： 令和2年6月16日
 - (2) 発生地域： 県中部
 - (3) 発生状況： 施設栽培のトルコギキョウにおいて、葉に退緑斑及びすす状の病斑が生じる症状が確認された（図1～3）。山口県病害虫防除所で診断を行い、県内未発生であるトルコギキョウ斑点病であることを確認した。
- 5 本病の特徴
 - (1) 病徴
はじめに下位葉に5～10mm程度の退緑斑が発生し、上位葉に進展する。その後、退緑斑上に黒褐色ないし灰褐色のすす状の分生子が葉の表や裏に形成される。病勢がさらに進展すると葉は枯死する。
 - (2) 病原菌の特徴
病原菌は、糸状菌の一種で不完全菌に属する。分生子は無色～淡オリーブ色の倒棍棒状で、隔壁を有する（図4）。
 - (3) 発生生態
盛夏を除き、ほぼ年間を通して育苗中及び本ぽで発生する。特に春から秋の多湿条件下で多発する。生態や伝染環の詳細は不明であるが、病斑上に形成される分生子により伝染する。
 - (4) 宿主植物
現在確認されている宿主はトルコギキョウのみである。
 - (5) 国内での発生状況
平成20年に福岡県で初めて発生が確認された。その後、高知県、大分県、熊本県、宮崎県、長崎県、和歌山県、沖縄県、広島県、福島県、宮城県、島根県、千葉県、岡山県、栃木県、群馬県、茨城県、鳥取県、鹿児島県で発生が確認されている。
- 6 発生地域における今後の防除対策
 - (1) 多湿条件で発生が助長されるため、施設内の通風及び換気に努める。
 - (2) 発生を認めた場合は、発病葉を取り除いた後、薬剤防除を行う。6月16日現在、花き類・観葉植物の斑点病に登録のある薬剤はダコニール1000のみである。
 - (3) 罹病株の残さは伝染源となるため、施設外に持ち出し適切に処分する。
 - (4) 発生した施設では他作物への転換を検討する。



図1 ほ場での発生状況



図2、3 葉の病斑



図4 分生子